

本殿は明治神宮の中で最も神聖な建物です。本殿には明治神宮の最深奥の聖所が収められており、神霊が祀られています。内部では神官によって様々な祭儀が執り行われています。中には、日々の御神饌を奉納し祈禱を捧げる御日供祭もあり、毎日午前 8 時と午後 2 時に執り行われています。

本殿とその周囲の建物は日本のヒノキで作られており、屋根は銅でできています。使用されているヒノキの多くは、日本でも多くヒノキを産出している長野県の本曽のもので、

本殿は流造様式で造られており、このスタイルは日本で作られた人気のある神社の建築様式です。このスタイルの建物では、正面の屋根は神社の建物までの階段を覆うように屋根が伸びており裏側の屋根よりはるかに長いです。

本殿の周囲には前に向かって、祝詞殿、内拝殿、外拝殿があります。外拝殿は神宮の正面にあり、拝観者がお参りをする場所です。

本殿は元 1920 年に建立されましたが、第二次大戦の戦火によって焼失しました。現在の建物は 1958 年に完成したものです。

防火の理由から、新しい建物には元の建物に使用されていた木の樹皮ではなく、銅が使用されました。